

戸田型PBL(プロジェクト型学習)の考え方

PBLとは

これからの変化の激しい時代を生き抜くためには、**課題解決能力**や**創造力**を通じて、社会に価値を生み出す力が必要である。また、そうした力を発揮する原動力となる社会への**貢献意欲**や**探究心**も欠かせない。PBLは、こうした資質・能力を育てることを目的に、**子供たちが主体的に、仲間と協力しながらプロジェクトや課題解決に取り組む形態**であり、主体的・対話的で深い学びの授業改善を追求した方法の1つである。

Type PBLにおける活動の種類

PBLの核となる子供主導の活動には以下のような種類がある。課題によりこれらを組み合わせる設計することが考えられる。

① 課題解決活動

現実社会の課題の解決策を追求する活動
(課題例)

- ・高齢者にとって住みよい街づくりをしよう
- ・地域の川の水質汚染を改善しよう

② 制作活動

創造力を発揮しアイデアを形にする活動
(課題例)

- ・地域のゴミ問題を解決する道具を発明しよう
- ・環境保護を呼びかける動画を作ろう

③ 探索活動

特定のテーマについて子供たちが自由なアプローチから探索し、理解を深める活動

テーマへの理解深化や課題発見を目的とする活動として、上記①②の活動の前段階に設定することも考えられる。

(課題例)

- ・生命の起源を探ろう
- ・公共交通機関が地域の中で果たす役割を探ろう

Type 効果的なPBLの5つのポイント

● 子供主導

PBLは、子供たちの貢献意欲や探究心を原動力として、子供主導で進行する。教師はサポーターの役に徹する。

● 批評に基づく企画案の推敲

子供は、最初に思いついた案をそのまま形にするのではなく、企画段階で何度も他者からの批評を受け作り直す。

● 本格的な発表・実践の場

子供はアウトプットを意識してこそやる気が出る。プロや地域も巻き込んだ魅力的な発表・実践の場を設定する。

● 現実社会とのつながり

子供はホンモノ志向である。課題設定や活動内容、発表などの場における、現実社会との関わりが鍵になる。

● 産官学民との連携

本格的なPBLの設計や運営のためには、企業等との連携が学校や教師にとっての強力な助けになる。

PBLの授業づくり例 (③探索活動+①課題解決活動)

単元名

高齢者と共に生きるためにわたしたちができることを考えよう。

学習内容

日本は、高齢化社会を迎えることとなる。高齢者のことを知り高齢者と共に生きるためには、どのようなことができるのか、自分なりの解決策を考え、地域社会に向けて提案をする。

本単元の目標

高齢者福祉について多面的に考えることができる。
高齢者と共に生きるための方法について、現実的で効果的な課題解決を行うことができる。

導入 プレ・アクティビティについての説明

プレ・アクティビティ (本単元を理解するための活動) 高齢者施設で高齢者と楽しくふれ合うための方法の追求

インプット

・高齢者体験をする・インタビューをする・町会を訪問する等。

プランニング

グループで考えた案を友達や地域の方(第三者)から批評してもらいブラッシュアップする。

アウトプット

高齢者施設を訪問し、お年寄りと一緒に楽しくふれ合うことを実行し、参加したお年寄りや教師、友達からフィードバックしてもらう。

リフレクション

アウトプットの場における気づきをまとめる。

実生活との
つながり

プレ・アクティビティでの学びや気づきをもとに子供自らが考えたグループ課題を設定

メイン・アクティビティ (本単元の課題を解決するための活動) 高齢者のために自分たちができることの追求

インプット

・高齢者施設を再度訪問する・インタビューをする
・町の様子を調べる・市で取り組んでいることを調べる・統計データなどの様々な資料を分析する・他教科で学んだ内容を関連させる等。

インプットとプランニングを繰り返しながら、課題解決にせまる。

プランニング

自分が考えた案(町の中の段差をなくす、便利グッズを施設のお年寄りに使ってもらおう等)を友達、施設の方、専門家の方(第三者)から批評してもらいブラッシュアップする。また、最終案の発表のための準備をする。

アウトプット

グループごとに解決策を発表し、高齢者施設のお年寄りや専門家の方、教師、友達からフィードバックしてもらう。

実社会との
つながり

リフレクション 活動での気づきを自覚
高齢者福祉について自分たちの生活との関わりや今後、考えていかなければならないことは何か等を捉える。

★個人単位でプロジェクト全体を通じての振り返りをじっくりと行い、課題解決から得た様々な気づきから、**高齢者福祉について多面的に考えられるようにする。**